

## 日見小4年生 学生と楽しく田植え

長崎市立日見小（宮本昭雄校長、397人）の4年生84人が22日、長崎市宿町の長崎総合科学大シーサイドキャンパス内にある田んぼで、学生と田植えを体験した。

地域連携の一環として2008年から毎年開催。同大は環境に配慮した農業技術の研究に取り組んでおり、田んぼには三菱長崎機工（長崎市）と長崎市、同大が共同研究した肥料を使っている。

### 総合科学大キャンパス内

子どもたちは稲が育つまでの説明を受けた後、一列に並び、学生にコツを教わりながら苗を植えた。安部ひなさん（10）は「歩くのが難しかったけれど、楽しかった。大きく育ててほしい」と笑顔で話した。

秋には収穫体験も実施する予定。同大総合情報学部1年のの中里亮太さん（18）は「米作りの体験を通して、日ごろ口にする食べ物がどのように育てられているかに関心を持ってほしい」と話した。（嶋田嘉子）



田植えを体験する子どもたち  
—長崎市、長崎総合科学大シーサイド  
キャンパス